

# 建物は変えられる 空間で保育も変わる

象地域設計 栗林豊

## 第10回

前号に引き続き、東京にあるA保育園の改修過程を紹介します。象地域設計とA保育園は1997年の大規模修繕工事から関わり、要望に応えながら改修を繰り返してきました。そのなかで耐震補強工事の補助金の順番を待っている状態が続いていました。

### ■長期修繕計画作成、中規模修繕と改修は続く

2009年にA保育園では長期修繕計画を作成しました。今後30年を目標に使い続けるためにどのような部分に修繕が必要で、どれくらいの建物維持費が必要になってくるのか見直しを持ち、園と居住者で修繕積み立てなどを見直すためです。その点を踏まえて来るべき耐震補強工事と合わせてどんな修繕を行えばよいか、園の保育をどう発展させていくかなど見直しを立てられるように話し合いました。耐震補強工事の補助は決まりませんが日常は続きます。2011年には屋上園庭の手すりを取り替えるなど、安全面改善を中心に中規模修繕を行いました。

保育室に布団入れを新に作り

たいという要望に、保育空間を狭くしないために既存収納の利用方法を見直して工事規模を小さくする提案をしました。幼児クラスの動線、遊び込みや落ち着きなどの改善課題を部屋単体ではなくホール等を含めて「食べる・寝る・遊ぶ」の使い分けを検討しました。工事だけでなく保育の仕方を合わせて検討し、園が目指す保育に合致した工事内容を確認する打合せになりました。他にも屋上でプールを



から出る要望以外にも、別の改善点や潜在的な要望、時には当初相談された工事をしない方がよいという提案ができることに繋がっています。

また色々な機会にお会いできると、何か困っていること、最近建物で不具合は？といったやり取りが気軽にでき、設計として関わらなくても民間募金活用で園庭改修や家具購入などにもちよっとした助言ができ、うまく行くこと喜ばれる事もあります。

逆に他の保育園では、なかなか顔を合わせたりお話しすることができていないと、久しぶりに伺った際に知らない間に行われた小さな修繕や困っていることが蓄積され、「そんな事

から出る要望以外にも、別の改善点や潜在的な要望、時には当初相談された工事をしない方がよいという提案ができることに繋がっています。

まで象さんに相談できると思わなかった」と後から言われる事も起きています。

### ■いよいよ耐震補強工事

A保育園は2011年にも区から耐震補強に関して良い返事はありませんでした。区の具体化を待てないということになりました。貸事務所を利用して保育団体の一時移転や転出の課題を、具体的な話に進めました。また、保育園と住民の負担が極力抑えられる補助金を活用しようと、補助金や融資を住民の方と協力して検討しました。区の保育課へは、東京都福祉局による社会福祉施設等耐震化促進事業の補助金や、安心子ども基金の大規模修繕や改修工事の区分に耐震補強が含まれている例など、区の決断で活用できるはずの国や都の補助制度を園から提示して、もう一段階具体的な計画も加えた申し入れを強めていきました。区立の保育園や小学校の耐震補強に目処がついた時期でもあり、保育課からも少しずつ前向きに検討する言葉を引き出すことができてきました。

そのうち貸事務所部分の転出

と時期が決まり、工事に現実味がでてきました。併せて補強後の貸事務所部分の活用も課題となりました。そこで、地域の要望から出発した地域に支えられ支える保育園でもあることから、地域や父母を巻き込んで今後地域の中でどのように役立っているのか、要望は何かを話し合う機会を設け、設計者も参加しました。

卒園して学童が不足していること、地域で子育てしている人への離乳食教室や、父母がちょっと買って帰られるお惣菜、高齢者への食事提供や集まれる場所、世代間の交流の場、さまざまな意見が出されました。そのなかで、待機児童問題も大変大きな課題であり応える必要があると、定員増と保育環境の充実を中心に地域の方も利用できることを念頭に改修計画を作っていました。

補助金の要件や土地の手配が難しかったため、仮園舎を設けず工期を分けて改修し、できたところに移動して保育をしながら、居住者もいながらの工事を選択しました。



この隣接公園利用の許可、工事中の消防・避難の検討を進めます。お昼寝時の工事音の制限なども工夫を考えるものの、引越しや工事のストレスは園児にも大人にも心配な点でした。しかし、住民や父母への説明で協力を得られ、先生方の準備と工夫、子どもたちのたくましさにも助けられました。身近に工事や職人さんと接することに興味を持ってくれる園児や父母も現れ、大変な中にも楽しい点を見つけてもらえ、大きな協力を得ることに繋がりました。施工者も園の状況に理解を示し、保育も工事もうまく進む方法を一緒に話し合っただけで進んでいきました。

育動線の変更も、仮保育室を経験したこと、やればできる！と思いついて切り替える決断をすることができました。工事中には東日本大震災も経験しましたが、竣工前ではあったものの、耐震補強に関する工事が完了していたことで大きな被害と地震での倒壊の心配がなく過こすことができました。こうしてなんと2012年に安心子ども基金を活用し、2013年に耐震補強改修工事を完了させることができました。

### ■「お任せ」にならない 保育園づくり

継続して園と近い関係を保ち、園の保育を理解し、時に専門家として相談に乗れる関係ができていけば、設計者の役割はたくさんあります。そしていつも考えているのは、どうすればその園の目指す保育を引き出す助けになり、良い変化を起こす手伝いができるかです。

保育園をいくつもやっている設計事務所だから「お任せ」と思われずに、園それぞれで目指す保育や実践している保育が異なり、建物などの条件によってすべて解決策が変わって

くることを理解してもらうよう気を付けます。また、園内でも園長や主任が決めた事だから、一部の方にお任せにならないように、どのように打合せを進めるのが良いか相談しながら工夫します。できるだけ多くの方に主体的に関わってもらいながら、自分の経験だけでなく、今後多数の人が使っていく上でどのような計画が良いのか一緒に考えてもらいます。

設計者としては「保育とは「普通」こうするのでは？これは今さら聞いたら恥ずかしいかな」と思うことでも、この園ではどのように考えてどう取り扱っているのか、率直に聞くようにしています。

既存の建物・ハードでも変えることができる、空間で保育の中身も影響を受ける。そして、空間を決めるのはどんな保育を実現したいのか、子どもたちにどんな経験や生活をしてもらいたいのかと言う中身です。だからこそ、保育士と設計者の専門家同士が理解・協力し合う関係が大切で、それが良い解決策をつくることにつながるという思いを共通認識にできることが大切です。

加えて、行政からの補助金では、まだまだ設計の必要性や重要性への理解がなく、位置づけが低いので、事前に改修計画を準備したくても設計費用が位置づけられない、誰に相談してよいか分からない保育園が多いと思います。そして補助金申請には工事費見積りを求められるため、保育園の先生から施工者に直接話をして工事費を算出する例もあります。先生方が考える範囲の工事で、施工者が指示された改修のみを行うことに留まらない、もっと保育園の身近で相談でき、より良い改善策を話し合える設計者の存在が広く求められているはずだと思います。

建築の視点から気づいた点を伝えるのももちろん、私たちが関わることで園の皆さんが保育を振り返り、理念を見つめ直す機会となればと思います。それを高めるために何をし、どんな工事を選択するかを一緒に考え、保育園も設計者も一段と高まっていく関係を築きながら、「保育理念を高める設計、保育実践を支える建物」を探求していきたいと思っています。

(注) 特殊建築物等定期調査報告書 建築設備定期検査報告